奉祝　天皇陛下御在位三十年

琴崎宮

平成三十年

第三号

平成を想う

琴崎八幡宮

宮司　白石　正典

秋天清爽のみぎり皆様方に於かれましては弥益に御健勝の御事とお慶び申し上げます。

畏れ多くも天皇陛下におかれましては、本年は御即位三十年の佳節を迎えられ誠におめでたく、慶祝にたえないところでございます。来年にご予定されております御譲位と、それに伴う諸祭儀諸行事が是非とも我が国の伝統に則って粛々と進められていくことを、僭越ながら期待申し上げる次第です。

当宮の悠久の歴史を顧みますと、厚東氏、大内氏、毛利氏、福原氏を始め、その時代時代を牽引してきた武家を始め数多くの歴史に名を馳せた人々、そして琴崎八幡宮を信仰し、その御神徳を仰がれた氏子、崇敬者の方々の奉護奉賛によって現在まで護り伝えられて来たのであります。私は平成十年に

裏面へ

宮司となり、今年で就任二十年目を迎えます。その間、平成二十二年十月十五日に斎行された、御祭神　應神天皇壱千七百年式年大祭、本年三月二十七日に斎行された琴崎稲荷神社御鎮座百五十年式年大祭など数々の歴史に刻まれる慶事が相継いだことは、宮司としてまた全職員にとっても栄誉この上なき事でありました。

明年は愈々御代替わりが予定されております。私共は平成の御代を振り返り、皇室国家に生かされてきた御縁に満空の感謝の心を捧げるとともに新帝陛下の新たな御代の平安と繁栄を心から祈りたいと思います。琴崎八幡宮と致しましても、新しい御代に向けて職員一同より一層自戒の念をもちまして恒例祭における祭祀の厳修はもとより、伝えていかなければならないもの、変えてはならないものを今後とも厳に守りつつ、新しい時代に即した神社として整備して参りたい所存でございますので、氏子、崇敬者各位のご指導ご支援を切に願いましてご挨拶とさせていただきます。

御挨拶

宮司　白石　正典
禰宜　野村　好史
権禰宜　藤野　勝也
仝　白石　治宣
仝　松永　賢治
仝　白石　貴浩
仝　畑中　憲一
仝　荒木　睦美

事務主任　牧田　公子
巫女主任　松尾　葵
用務主任　橋本　栄子

総代会会長　光井　一彦
崇敬会会長　兼広　三朗
皇道会会長　藤里　忠雄

責任役員・常任総代紹介

総代会会長
光井　一彦

責任役員
兼広　三朗
品田　和彦
林　和男
原田　敏明

常任総代
厚見　元雄
恵本　元
小川　澄夫
木村　利彦
国重　義信
国重　靖夫
坂根　茂良
作村　良一
篠崎　圭二
清水　源五
高橋　義幸
竹中　建皃

常任総代
田村　征生
冨田　百合男
中野　泰雄
西田　利男
西山　一夫
萩田　雅重
長谷川　光彦
畑山　登喜次
福光　策朗
藤重　誠
藤田　哲也
藤本　公司
松下　明
松中　博
八木　歳且
米原　辰夫
綿屋　裕之

（常任総代五十音順）

秋葉山本宮秋葉神社参拝

平成三十年九月十一日、静岡県浜松市に鎮座される秋葉山本宮秋葉神社を当宮宮司他随員二名にて参拝致しました。この秋葉山本宮秋葉神社は浜松市の市街地から車で一時間ほど山間を進んだ天竜川上流秋葉山に鎮座し、主祭神は火之迦具土大神(ヒノカグツチノオオカミ)と申し上げ火を司る神、火除けの神と広く崇敬を集めている神社です。日本全国に火の神を祀る秋葉神社と称する神社は数多くございますが、それらの多くはここ秋葉神社を総本宮と仰ぎ祀られております。標高八六六米の秋葉山山頂付近に鎮座します上社からは雲海を眼下に見下ろし、今までに経験したことのない神秘的な景色に一同圧巻されました。今回、私どもがこちらを参拝させていただきましたのは秋葉大神様の御分霊(神璽)を戴く事が目的でした。これに至った経緯をご説明申し上げます。

かつて琴崎八幡宮の境内地には秋葉大神様をお祀りした秋葉神社という末社が存在致しました。全国津々浦々の神社にあって夏越の大祓式は、およそ六月三十日に斎行される場合が多いと思われますが、当宮では毎年八月一日に斎行される慣例となっております。その理由はかつて当宮境内地に秋葉神社が存在し、その例祭日が八月一日であった名残といわれております。神事は夜間に斎行され、社殿の前に櫓を組み皆で盆踊りを踊っていた様です。昔は現代の様に男女の出会いの場が少なく、夜祭りの場が男女の数少ない出会いの場であったと伝え聞いております。

この様な経緯を踏まえて、いつしか職員の間から秋葉神社復興を切望する声が上がり始めました。新たに社殿を造営し御神霊をお祀りする場合、その御神霊は本宮様から戴くことがこの様な場合の決まり事となっております。そこで職員間で意見を集約し、秋葉山本宮秋葉神社の河村基夫宮司様に秋葉神社復興の相談をしたところ、快く御分霊(神璽)を戴くお許しを得て、この度こちらから戴きに上った次第です。本宮様にとられては大正時代以来百年振りの他社への御分霊であると伺いました。

当日は秋葉山山頂の上社の方に参宮し、河村宮司様ほか二名の神職の方々に御奉仕いただき恭しく奉告祭を斎行していただきました。また当宮でも御分霊(神璽)を奉じて帰宮後に直ちに仮遷座祭を斎行致しました。仮遷座祭当日は朝から絶えず雨が降っておりましたが、不思議な事に遷御の瞬間だけは雨がやみあがりました。祭典を奉仕した者皆が秋葉大神様の御神徳を感じさせられた瞬間でした。

当面の間、御神霊は当宮本殿に仮にお鎮まりいただき、来たる御大典記念事業(新天皇陛下御即位の記念事業)として新たに社殿を造営の後、正式に御遷座する予定となっております。今回、当社に秋葉大神様をお迎えし秋葉神社復興への道筋がつきました事に関して、深いご理解とご尽力を賜りました河村宮司様をはじめ職員の皆様方へ心から感謝御礼申し上げます。

安倍晋三内閣総理大臣 正式参拝

平成三十年八月十四日

平成三十年八月十四日正午、安倍晋三内閣総理大臣が当宮を訪問され正式参拝されました。当日は午前中割と早い時間から安倍総理大臣の来宮を待ちわびた大勢の氏子・崇敬者が境内に押し寄せ、皆今か今かと心待ちにしておりました。

宮司、光井一彦総代会会長、兼広三朗崇敬会会長、藤里忠雄皇道会会長、また案内役として地元山口三区選出の河村建夫衆議院議員が車寄せに並び安倍総理大臣をお出迎え致しました。車から降りられ、手水の儀の後、宮司の案内にて参道を進まれると到着を待ちわびた数多の人々から一斉に大きな拍手と歓声が上がりました。

この後、安倍総理大臣には昇殿していただき正式参拝されました。参拝の後、宮司より当宮の由緒、歴史に関する説明があり真剣に耳を傾けておられました。また芳名帳への参拝記帳に際しては「不動心」の揮毫を頂戴致しました。

正式参拝の後には、拝殿前にて当八幡宮関係者との記念撮影に臨まれました。僅か三十分の短い滞在時間ではありましたが、参道に集まった氏子・崇敬者とにこやかに会話をされ、しばし触れ合いのひと時を楽しまれました。お帰りの際は、どこからともなく「安倍総理万歳」の声が上がる中で、皆でお見送りを致しました。

芳名録

元文部科学大臣
衆議院議員
河村建夫氏
平成三十年二月三日
節分祭参列

文部科学大臣(当時)
参議院議員
林芳正氏
平成三十年四月十五日
春季大祭参列

安倍晋三内閣総理大臣
令夫人　安倍昭恵氏
平成二十九年十二月四日
正式参拝

直木賞作家
伊集院静氏
平成三十年二月六日
正式参拝

琴崎稲荷神社
御鎮座百五十年式年大祭

祭典

去る三月二十七日（旧暦初午の日）午前十一時より琴崎稲荷神社御鎮座百五十年式年大祭が厳かに斎行されました。当日は快晴のなか春の暖かな陽気に包まれて多数の参列を賜っての祭典でした。琴崎稲荷神社の例祭は毎年旧暦の初午の日に斎行される慣例となっておりますが、今年は御鎮座百五十年の式年大祭ということで特に華々しく盛大に執り行われました。宮司の祝詞に引き続き長陽雅楽会の舞姫による「浦安の舞」奉奏、雅楽の調べの中、参列者は一人ひとりそれぞれに願いを込めて玉串を献奉りました。祭典終了後は記念式典へと移行し、「なでぎつね」「なでうさぎ」の制作者、田畑功氏と日本庭園の造園を請け負った西日本住宅企業株式会社にそれぞれ感謝状が贈呈された後、「なでぎつね」が宮司、光井総代会会長、兼広崇敬会会長、田畑氏の四名によって除幕され会場は大きな拍手と歓声に包まれました。

琴崎稲荷神社は明治元年（一八六八年）に京都の伏見稲荷大社より神霊を勧請し創建されました。今年は御鎮座百五十年の嘉節を迎え、長年に渡って農業、商工業また商売繁盛、家内安全に篤く崇敬されてまいりました。稲荷大神様へ感謝の誠を捧げ神恩に報いるべく約一年前に実行委員会を立ち上げて種々の記念事業を企画してまいりました。氏子崇敬者の皆様方より多大なる御厚志を賜りこの式年大祭が無事に執りなされましたことご報告と心より感謝御礼申し上げます。

日本庭園

祭典に先立ち三月中旬、琴崎会館前に池を含む日本庭園が完成しました。元々この場所には錦鯉が数匹泳ぐ小池と坪庭がありましたが、長年にわたり手水舎の裏に隠れ参拝者の目に触れにくく分かりづらい環境にありました。今回、この稲荷神社御鎮座百五十年祭斎行にあたり参拝者に広く親しんでもらえる様に池周辺を整備拡張してはどうかとの意見が関係者より出され日本庭園の造園となった次第です。池を拡張し、元の坪庭から再利用できるものは再利用し、また周辺には植木や石を新たに配する事で立派な庭園が完成致しました。池には水音の心地よい滝をつくり、琴崎会館へつながる風流な石橋を渡し、色とりどりの錦鯉を泳がせております。お参りに際は是非お立ち寄りいただき庭園美をご鑑賞ください。

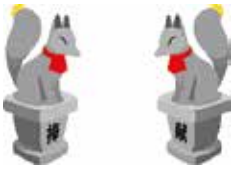
親子なでぎつね・なでうさぎ像の建立

稲荷神社百五十年祭を記念して、稲荷神社前に「親子なでぎつね」を薬神社前に「なでうさぎ」をそれぞれ建造し、三月二十七日の祭典斎行後に除幕式が盛大に執り行われました。これらの銅像は富山県高岡市在住で日展審査員を務められた彫刻家田畑功氏によって制作されました。これまで琴崎稲荷神社には「狛狐」が存在せず、関係者の間からは「稲荷神社には狐がつきもの。この際、記念事業として狐に関係するものを建造してはどうか。」との意見が出され田畑氏に依頼した次第です。田畑氏によると親狐に甘えた子狐と慈愛に満ちた眼差しで子狐を見つめる親狐がモチーフとのことです。また薬神社前の「なでうさぎ」は御祭神が大己貴命（おおなむちのみこと）大国主神の別名）であることから因幡の白兎をモチーフに併せて建造されました。こちらも愛くるしい表情でご参拝の皆様に大変喜ばれております。

琴崎八幡宮へご参拝の際は、是非この「なでぎつね」「なでうさぎ」にも足をお運びください。

バリアフリー化

琴崎稲荷神社関係の各種記念事業が行われる中で合わせて境内のバリアフリー化の工事が行われました。琴崎稲荷神社脇に障がい者駐車スペースは従来からありましたが駐車スペースから賽銭箱前まで車いすで進むことが出来ず整備状況としては不完全なものでした。以前から身体の不自由な方々より「一度でもお賽銭箱の前で鈴の緒を振ってお参りしてみたい。」との切なる要望を受けていた為、この度工事に取り掛かった次第です。工事概要としては障がい者駐車スペースから新たにスロープをつけて車いすで賽銭箱の前まで行けるようにし、賽銭箱の前のスペースを縦に六十センチ拡幅し車いすでも回転が出来るようにしました。バリアフリーの観点からすると境内随所にまだまだ改善すべき余地がありますので、今後も検討のうえ改善に努めてまいりたく思います。



祭典風景

平成三十年三月二十七日　斎行

各種記念事業

なでうさぎ

親子なでぎつね像

日本庭園　造園

拝殿前バリアフリー化

社務動静

琴崎薬神社 春日灯篭奉納

この度、新たに琴崎薬神社前に春日灯篭一対が奉納されました。これは前総代会長の椎名定雄氏令夫人禮子氏からの申し出から実現したものです。過去に禮子氏が大病を患われた際、この薬神社に病気平癒の願掛けをしたところ、驚異的な回復を果たされた事への感謝の意味が込められております。

元々この薬神社前には壱千七百年式年大祭の奉賛事業として琴崎八幡宮崇敬会から春日灯篭一対が奉納されておりましたが、新たに奉納された春日灯篭が加わり夜間にはより一層明るく厳かな雰囲気になりました。

多大なるのご厚志に心から感謝御礼申し上げます。

大鳥居下駐車場に 境内鳥瞰案内図

国道四九〇号線に面した大鳥居下の駐車場に新たに境内案内図が設置されました。

この案内図は地元で活躍されるイラスト画家きじまやすえ氏により原画が描かれ、土台及び枠は(株)しのだ住研(篠田義仁社長)により創立四十周年を記念して奉納されました。ソーラーパネルによる夜間照明も点灯され参拝者の皆様からも大変好評をいただいております。

特大干支絵馬 奉納奉告祭

昨年十二月二日(土)十二時二十分より快晴の中、平成三十年の特大干支絵馬奉納奉告祭が斎行されました。

この特大干支絵馬は前年に引き続き宇部市立上宇部中学校(師井浩二校長)美術部の三年生部員の皆様に依頼し制作していただきました。奇しくも平成三十年は境内末社琴崎稲荷神社が京都の伏見稲荷大社から勧請されて百五十年の節目を迎え、三月二十七日には御鎮座百五十年式年大祭が斎行されることから社殿と色鮮やかな朱鳥居を背景に、併せて平成三十年の干支が戊戌(つちのえいぬ)であることから、凛々しい狛犬と可愛らしい犬を付け加え描いていただきました。

七月中旬頃より神社と学校側とが何度も構想を練りお互いのイメージを擦り合わせ、八月中旬頃からいよいよ制作に取り掛かりました。完成までにはおよそ三ヶ月を要し秋の学校文化祭にて一般に展示された後に奉納されました。時には顧問の先生方の助言を賜りながらレイアウトや配色などに細心の注意を払いながらの完成であったと伝え聞いております。今後、この特大絵馬制作は毎年三年生美術部員の卒業作品として、上宇部中学校の伝統として長く受け継いでいかれる事となっております。

特大干支絵馬は当宮正面大鳥居横、国道四九〇号線に面した場所に年末まで掲げられておりますのでお近くにお立ち寄りの際は是非ご覧くださいませ。

第一回風鈴まつり開催

去る七月二十日から八月三十一日まで境内に於いて第一回風鈴まつりが開催されました。これは今年より始められた新しい祭事です。当宮では一年を通して夏が最も参拝者の少ない時季となります。より大勢の参拝者にお参りしていただくには如何にすれば良いかと関係者

一同喧々諤々議論を重ねた結果、今年初めての開催される運びとなりました。

境内参道にトンネル型の風鈴掛けを設け、風鈴の短冊部分に願い事を書き、絵馬の様な要領で風鈴に結び付け奉納していただく形です。風鈴は蒸暑い夏に少しでも清涼感を得る目的で吊り下げられるものですが、神道的感覚で言えば清々しい音による祓い清めの意味があると考えます。神社参拝時に鈴の緒振って鈴を鳴らすのもその意味があるといわれます。

七月二十日午前十時、風鈴まつり開催に先立ち開催奉告祭が風鈴掛け前で斎行されました。神事の後には琴崎保育園の園児たちによる風鈴の掛け初めと風鈴掛けの潜り初めが行われました。

車イス並びに竜神画掛け軸奉納

この度、(株)宇部兵間仏閣堂代表取締役の兵間大作氏により車イス二台と竜神画掛け軸二幅が奉納されました。車イスは琴崎稲荷神社御鎮座百五十年式年大祭の記念事業によりバリアフリー化が進んだことを受けて奉納されました。また竜神画の掛け軸は鳥取県米子市在住の指絵画家、濱田珠鳳氏が描いたもので、筆を使わず指のみで描かれた大作です。こちらは琴崎会館の床の間に常時飾られております。

車イスの必要な方、また竜神画拝観をご希望の方はお気軽に社務所までお声掛けください。

兵間氏のご厚志に心から感謝致します。

みくじ・絵馬頒布所

平成二十九年末、先般増築した新授与所に付属して「みくじ・絵馬頒布所」が新たに完成致しました。

これまでは専用の頒布所は存在せず仮設のテントで頒布しておりましたが、新授与所完成後に関係者で協議した結果、やはり専用の頒布所を併設した方が良いであろうとの結論に至り増築する事となりました。場所は授与所の本殿側で本殿に向かって北向きに作られております。ご参拝の際は是非お立ち寄りください。

職場体験

八月二十三日、二十四日の二日間にわたり、宇部市立神原中学校の生徒四名(男子二名、女子二名)が当宮に職場体験に訪れました。皆、普段慣れない礼儀作法や言葉遣いに悪戦苦闘しながらも一生懸命に社務に取り組む姿勢は我々職員も初心を忘れてはならないと強く心に響くものがございました。

二日間という短い期間ではありましたが今回経験したことを学校の中、また社会の中で生かしていって欲しいと心から願っております。

日本人の心

「日本人の心」掲載にあたって

琴崎八幡宮では「日本人の心」と題して皆様に寄稿いただいております。今後、いただいた各々の考えを本紙上にて紹介してまいります。尚、寄稿された方の希望により匿名で記載する場合があります事、御了承いただきたく存じます。様式不問でございますので、皆様からの寄稿心よりお待ち申し上げます。

山口県神社庁総代会会長
琴崎八幡宮総代会会長
光井一彦

数年前、神宮大麻の広報の中に「神宮大麻と氏神様の御神札をお祀りすることは『日本人の心』を継承することです」との項目があり、私はこれを見た時思わず「日本人の心」は誰もが心に持っているものであり、これを表現すればきっと素晴らしい文集が出来ると考えつきました。無理を承知で皆様にお願いしたところ、ある程度の原稿が集まりましたのでここで掲載に踏み切ることに致しました。

さて私事で大変恐縮ではございますが、私が神社の御奉仕に関わる事になりました経緯から説明致します。平成二十年頃、琴崎八幡宮の前総代会長の椎名定雄さんより責任役員への就任要請を受けていましたが、当時私は宇部商工会議所会頭、山口県公安委員と公職に就いており大変忙しい日々であったため一度はお断り致しました。しかしながら椎名さんは私が勤務しておりました宇部興産(株)の先輩であり、その後も強い要請がありましたのでお引き受けする事にした次第です。

それまで神社といえば工場の安全祈願、新工場建設の起工式、新年の初詣くらいなものでそれほど真剣に考えた事はなかったかと思います。責任役員就任後、少しずつ様々な神事、行事に関わりはじめ平成二十四年に琴崎八幡宮総代会会長に、平成二十八年に山口県神社庁総代会会長に就任してからは様々な大会、神社本廳の会議等に参加し、神社とは何かが少しずつ理解出来る様になってきた今日この頃です。

そうした中で神社とは何かを常々考え、私なりに現時点で辿り着いた思い、「日本人の心」は神社に継承されているとの結論に至りました。中でも万世一系の天皇陛下の御位が百二十五代、二千六百七十八年も続いている事は、他国にはない日本の神秘的な歴史の重みと私は感じ取っています。この歴史の重みの基、「日本人の心」は祖先から受け継がれ未来へバトンタッチしていかねばならないものと考えます。従って私の「日本人の心」とは皇室を敬う事であり(祝日には国旗を掲揚)、併せて神社での作法厳修並びに奉仕活動を通じて感得してゆくものと考えています。今後この企画に賛同者が増え多くの考えが集まり次第、充実した文集として発行される事を祈念しています。

終わりに、この寄稿をもとに文集発刊に向け尽力くださいます、白石正典宮司及び琴崎八幡宮職員の方々に心より御礼申し上げます。

安産祈願戌の日表

平成三十年

10月9日(火)・21日(日)
11月2日(金)・14日(水)・26日(月)
12月8日(土)・20日(木)

平成三十一年

1月1日(火)・13日(日)・25日(金)
2月6日(水)・18日(月)
3月2日(土)・14日(木)・26日(火)
4月7日(日)・19日(金)
5月1日(水)・13日(月)・25日(土)
6月6日(木)・18日(火)・30日(日)
7月12日(金)・24日(水)
8月5日(月)・17日(土)・29日(木)
9月10日(火)・22日(日)
10月4日(金)・16日(水)・28日(月)
11月9日(土)・21日(木)
12月3日(火)・15日(日)・27日(金)

平成31年　厄年　年齢表

男性の厄年　生まれ年　(数え年)								
25歳			42歳			61歳		
前厄	本厄	後厄	前厄	大厄	後厄	前厄	本厄	後厄
平成8年	平成7年	平成6年	昭和54年	昭和53年	昭和52年	昭和35年	昭和34年	昭和33年

女性の厄年　生まれ年　(数え年)								
19歳			33歳			37歳		
前厄	本厄	後厄	前厄	大厄	後厄	前厄	本厄	後厄
平成14年	平成13年	平成12年	昭和63年	昭和62年	昭和61年	昭和59年	昭和58年	昭和57年

◎

「むかし、むかし、あるところに…」で始まる日本昔話。代表的なものに『桃太郎』がありますが、その心にあるものは「正直」や「相互扶助」の精神といわれております。現在に至るまで、日常生活のなかで神や仏を敬う心や拝む心は、親から子へ子から孫へと当たり前のごとく自然に培われ伝え継がれてきております。家庭では神棚に神宮大麻と氏神様の御神札、仏壇にはご先祖様をお祀りし、感謝の誠を捧げ毎日の平穏などを祈っております。目には見えないが我々日本人は「正直」を基に「敬神崇祖」の精神を先祖より脈々と継承しております。換言すれば日本人が持っている心は我が国が誇れる日本民族の文化であり、如何に時代が変遷しようとも大切に受け継いでいきたいものであります。

責任役員　品田和彦

◎

日本は本来、太古の昔から神を中心とした生活をしていたと思う。神中心とは「正直」であること。神は正直な人(嘘をつかない、人の心を傷つけない人)を守護してくださる。古来、日本人は義理、人情、恩、感謝、やさしさを大切にしてきた。このことを生活の中に取り入れ身につけていた。これが日本の美しい心だと思う。また戦前は国民の道徳教育の規範とされた教育勅語が存在し、全国民に一本の筋として生かされていた。現在はそれが破られ自我が強くなり大いに乱れている。良いこと悪いことの判別もつかず思いのままに生活し一本の筋がないことが残念である。ここで日本は初心に還り、今一度、教育勅語の精神に立ち戻ることが大切ではないだろうか。それにより美しい日本の心が再生するものと確信している。

匿名寄稿

※　神宮大麻(じんぐうたいま)…伊勢の神宮の御神札

※　敬神崇祖(けいしんすうそ)…神を敬い先祖を大切にすることの意

※　教育勅語(きょういくちょくご)…明治二十三年、明治天皇の御名で発布された国民道徳の規範

琴崎八幡宮

鎮守の森緑化基金

平成二十二年の『壱千七百年式年大祭』の記念事業
「もみじ苑造成」においては皆様方の御協力をいただき、お蔭様を持ちまして境内には
イロハモミジをはじめ、ソメイヨシノ、アジサイ、榊等、数多くの植樹をすることができました。
これからも心癒される境内として、鎮守の森を護り後世に伝えていけるよう
更なる植樹、剪定、追肥、消毒などの護持整備活動の継続を目的とした
「鎮守の森緑化基金」を開設致しました。つきましては、この護持活動にご理解をいただける方々に
一口「二千円」から御奉賛をお願いしております。なお、御奉賛いただけました方は
御芳名帳を神前に奉納し、末永く保存させていただきます。
何卒御協力の程、宜しくお願い致します。

御奉賛は社務所にて受付しております

消失した境内末社「高田（こうだ）神社」の行方

権禰宜　松永　賢治

現在、琴崎八幡宮には本殿の他に三社ほど末社がある。琴崎稲荷神社、宮地嶽神社、薬神社である。これらの末社の他にかつて「高田神社」と呼ばれた境内末社が存在したらしい。今、琴崎八幡宮境内にその痕跡は全く見受けられない。高田神社の高田という文字は琴崎八幡宮の鎮座地の小字に由来し「こうだ」と読むらしい。この神社は明治四十二年五月十七日、岬の住吉神社（見崎神社）、草江の大歳神社、梶返の梶返神社（天満宮）、小串の黄幡社（鵜島神社）の四社が移転合祀され、新たに琴崎八幡宮境内に造営された神社である。

明治三十九年政府は神社の統廃合を促す「勅令第二百二十号」を出した。山口県に於いても「其名ありて其実なきもの」を排除、または合併するとの方針で整理が進められた。（山口県告諭二第六号）　ではなぜ政府はこの様な施策をとったのであろうか。

神社整理の主な対象は、従来小さな集落で生産の中心として信仰されていた運営規模としては弱小な「無格社」であった。それらは、国家からみれば「由緒」のないものであり、新たに行政区画＝「町村制」が実施され旧来の集落も解体され統合される過程で不必要なものとされたのである。国家としては「不必要」と思われる過剰な神社を整理合併することにより神社財産の増加、氏子の拡大による神社運営費の増加を図り、存立神社を経済的に安定させる事が主たる目的であった。故に最低限一町村に一社あれば良かったのである。

右の「高田神社」の例はあくまで一例に過ぎず、この神社整理の施策は全国的に執り行われ、殊に山口県にあっては村社が三一九社から二六九社に無格社が二一八九社から四九〇社へとその数を減じ、特に無格社の統廃合は凄まじい勢いで行われた。これに対して長年、村落社会の鎮守の神と崇め敬っていた「元」氏子たちが決して快く思っていた訳ではない。博物学者で民俗学者の南方熊楠らは鎮守の杜の解体は自然破壊のみならず敬神の念を損なわせ、民の融和を阻害し、村落社会の崩壊を招きかねないとしてこの施策に猛然と反対運動を巻き起こした。国策とはいえ日々の信仰の対象を奪われた怒り悲しみはいかばかりであっただろうか。上からの画一的な政策に相当な抵抗があったはずである。明治四十一年、県当局は「非公認神祀」の排除を警察と連携して行うように命じていることからも民の抵抗の大きさを物語っている。後に南方らの尽力した神社合祀令廃止運動は実を結ぶ事となる。大正七年三月、帝国議会において神社合祀令廃止は全会一致で可決された。神社合祀令で得るものも確かにあった。しかし民から半ば強引に信仰を奪い、村落共同体としての要であり求心力であった鎮守の杜を破壊し地域の伝統を途絶えさせたことは得るものよりも失うものの方が大きかったと言えはしないだろうか。

こうした中で前述の黄幡社（鵜島神社）にあっては高田神社への合祀後、大正四年に「元」氏子たちによって復祀運動が展開された。しかしながら地元住民の切実な願いも空しく、失敗に終わっている。ではいつ高田神社は廃祀され、どの様な過程を経てそれぞれの元宮が復祀されたのであろうか。現に先の四社はそれぞれの場所に戻っている。（大歳神社のみは現在、常盤池の小島に鎮座する常盤神社に合祀されている。元の社殿地は草江児童公園となり宮碑のみ残っている。）

神社合祀令廃止後の大正十二年　未曾有の天災、関東大震災が発生する。これを境に消滅神社の復祀が全国的に行われるようになり、これまでとは逆にその数は増加していったとされる。富国強兵、近代化が推し

高田神社の遺構か？境内裏手の石組み

山林に残る鳥居の一部（笠木）

進められる中で、いつしか唯物思想に染まり、目に見えざる精神的存在をともすれば疎かにしてきた中での天変地異は人々の胸に忘れかけていた神明への畏怖畏敬の念を抱かせ同時に深い反省を呼び起こしたといわれる。

このような世情を反映してか大正十五年、黄幡社の復祀運動が地元民の間で再び沸き起こってくる。しかし四社が合祀された高田神社の中から一社のみの分祀は難しいとの理由で高田神社ごと遷座しようとした事で、今度は住吉神社と梶返神社の「元」氏子たちが猛反発する出来事があった。ここまでは史実として記録に残っている。問題はここからである。八方手を尽くして資料を集めてみたものこれ以上の手がかりは見つからなかった。情けない話ではあるが当宮の古い日誌等の記録も散逸して残っていない。故にここからはあくまで推定仮説の域を出ない話ではあるが、おそらく大正十五年二月以降昭和改元前後の間に、先の黄幡社復祀運動に端を発し、それが他の三社に波及したのではないかと考えている。理由として

現在の黄幡社

①現在、黄幡社に設置してある由緒書には「大正末期」に関係諸氏の尽力により復祀の実現が叶ったと記載してあること。

②同じく高田神社に合祀してあった梶返天満宮の由緒書には「大正末期」に社殿を改造し境内(西側)を拡張したと記載してあること。

右の由緒書でキーワードとなるのが「大正末期」という表記である。史実として残っている黄幡社の復祀問題は紆余曲折の末、結果として運動は実を結び復祀は叶った。この黄幡社復祀は他の三社復祀の引き金となった。故に梶返天満宮では「大正末期」に神霊にお戻りいただく際の社殿を改造し、境内拡張を行う必要があったのではないだろうか。

以上が私の高田神社に対す一考察である。勿論、資料の乏しい中での執筆であるため一部には推量で書いていることをお断りしたい。今回の執筆にあたり未だに不明なところもある。高田神社が琴崎八幡宮境内地のどこに鎮座していたのか定かではでない。新しい資料をお持ちの方は今後のためにも是非情報をお寄せいただきたく思う。

今回、「消失した境内末社」と題して「高田神社」の変遷について書き記してみた。歴史の中に埋もれた記録を呼び起こすことは大変な作業ではあるが、次代の為にも社史を明らかにしておく事は大切な事であると常々思う次第である。

参考文献
「宇部市史」
「琴崎八幡宮物語」　堀雅昭著
「山口県神道史研究」創刊号
「宇部時報」大正四年六月二十五日号
「宇部時報」大正十五年二月十日号

伝統ある八幡宮で
日本ならではの結婚式を

古来の「神前結婚式」
御初穂料十万円
（雅楽生演奏二万円　巫女舞一万円　各別途）
略式の「結婚奉告祭」
御初穂料二万円

新郎新婦が一心同体となり、偕老同穴の契りを結ぶ人生で最も慶祝すべき儀礼。神聖な夫婦の契りを琴崎八幡宮の大前で結び固めてみませんか？お申込み、お問合せは社務所まで

新駐車場整備

正月初詣時や春秋大祭時等の駐車場混雑解消のため新たに二か所の土地を造成し駐車場として整備致しました。平素は施錠致しておりますが、混雑時は駐車場として開放致しておりますので従来の駐車場とあわせご利用ください。

年間祭事日程

一月一日	零時	歳旦祭
一月三日	十時	元始祭
二月節分	九時半	節分祭
二月八日	十時	針祭
二月十一日	九時半	紀元節祭
旧暦初午の日	十一時	稲荷神社例祭
春分の日	十一時半	春季祖霊祭
四月十五日	十時	春季大祭
仝	十一時	献茶式
六月十五日	十一時	宮地嶽神社例祭
七月二十日より八月三十一日		風鈴まつり
八月一日	十時	夏越大祓式
九月一日	十一時	薬神社例祭
秋分の日	十一時半	秋季祖霊祭
十月十五日	十一時	秋季大祭
		本殿祭
十月第三日曜日	十四時	秋季大祭
		御神幸祭
十一月上旬	十時	新嘗祭
十二月二十三日	九時半	天長祭
十二月三十一日	十八時	大祓式

新入職員・退職職員紹介

新入職員

事務主任　牧田公子
平成三十年四月一日付

巫女主任　松尾葵
平成三十年四月一日付

退職職員

事務主任　渡辺美知子
平成三十年七月三十一日付

編集後記

間もなく平成の御代が終わろうとしている。この平成という時代、社会では様々な出来事があった。喜怒哀楽、それぞれの出来事に対して個々人での思うところや解釈はあるであろう。昭和の終わり頃に生まれた私にとっての平成は自分史そのものでもある。先帝陛下の崩御、今上陛下の践祚は幼き私にとっても大いなる御代の終焉と新しき時代の訪れを感じさせるものがあった。この間も社会のシステムは休むことなく動き続け、時代の変化とともに新しき時代に即した型に大幅な変革が求められた。換言すれば政治的にも経済的にもこれまでのシステムを改めなければ、新しき時代の中で生き残れなかったということである。このような社会情勢の中で不必要となるものは容赦なき淘汰の嵐にさらされていった。物事は光と陰である。間もなく終わろうとする平成の世が諸々の犠牲の上に成り立っていたこと、そして今自分自身が生かされていることへの感謝を忘れてはならないと思う。我々が経験したことを後の世に伝えてゆくことはこの時代を生きた者の義務であると考える。平成最後の「琴崎宮」、新しき御代が光輝く時代となる事を祈念し、ここで筆をおく事とする。

権禰宜　松永賢治

〒755-0091
山口県宇部市上宇部
571番地
琴崎八幡宮社務所
☎(0836)21-0008
FAX(0336)31-9618
http://kotozaki.com
発行人　白石　正典
編集人　松永　賢治
印刷　児玉印刷株式会社
題字　石川習字教室
石川　華泉